

## アワーミュージアム

第23号 2003年10月10日発行



## 博物館での新鮮な感動

おおいし まさあき  
大石 雅章（友の会会員）

昨年春から夏にかけて、奈良国立博物館で大仏開眼1250年を記念して特別展「東大寺のすべて」が催された。ちょうど奈良に所用があり、その機会を利用して訪れることにした。

東大寺の代表的な寺宝が並ぶと聞きわくわくしながらも、雑踏のなかでじっくりそれらを見学できるかという危惧もあって、開館とほぼ同時に入館した。予想を超える質と量の文化財が展示され、感動の連続であった。その中の1つに『東大寺寺中寺外惣絵図』があった。これは、江戸時代初期の作品で縦309.5cm、横247.5cmの巨大な絵図であり、当時の東大寺境内が詳細に描かれている。この絵図を丹念に見ると、焼失した大仏殿跡の東側の浄土堂跡・鐘楼等がある区域に、阿波民部大夫重義（能）の石塔を見つけた。以前にこの石塔に言及した研究はなく、新星を発見した天体観測者のような興奮を覚えた。なお、この石塔は残念ながら現存していない。

阿波民部大夫重能は、平清盛の郎従として活躍した阿波出身の武士である。源平の合戦では平氏軍の主力として数千の軍勢を率いて各地を転戦している。軍記物の最高峰とされる『平家物語』にもしばしば登場し、そこから武士とはまた違った重能の姿が窺い知ることができる。巻第6「築島」では、重能は、平清盛から福原の外港大輪田泊（現神戸港）の修築奉行に任命されている。大輪田泊は日宋貿易をすすめる平氏政権の重要な港であっ

た。おそらくこの任命の背景には、重能が商業流通に携わり、港湾に精通した人物であったからとみられる。巻第8「太宰府落」では、重能が四国の人々を動員して屋島の御所を造営し、四国に落ちた平氏を迎え入れている。重能の勢力は阿波に限らず讃岐にも及び、彼は御所の造営を成し遂げる政治的・経済的実力をもっていた。巻第10「藤戸」では、一ノ谷で敗れた平氏が最後に頼みとしたのが、この重能であったと記されている。

重能の本拠については諸説ある。弟能が桜間介と呼ばれ、阿波国の統治機関である国衙で、中央から派遣される守（国司）に次ぐ重職にあることや、桜間という呼び名から徳島市国府町から石井町にかけての地域であったとする説が有力である。

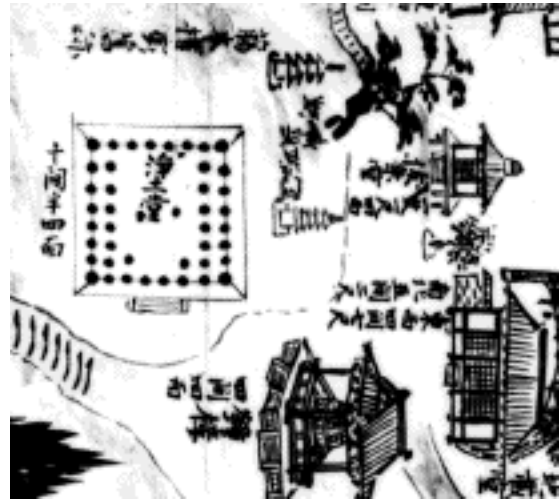
治承4年（1180）に南都の諸寺院は、反平氏の旗を掲げたために、平氏軍の攻撃にあい、ほとんどの伽藍が焼失した。東大寺の再建は勸進聖俊乗房重源に託された。俊乗房重源の仏教興隆事業を記した『南無阿弥陀仏作善集』には、鐘楼の岡の浄土堂に安置された10体の丈六仏の内、9体が阿波国からもたらされたと記す。『東大寺建立供養記』には、その9体の丈六仏の願主があつた阿波民部大夫重能と記され、俊乗房重源が願主を失ったこの阿波の御堂の諸仏を、東大寺浄土堂に移したのであった。重源は築島の修復の際に、公卿議定による「人柱」を罪深きこととして、代わりに経を記した石を埋めたように、仏教に造詣の深い文化人であった。

平安末には、阿波国に丈六仏が9体も並ぶ壮麗

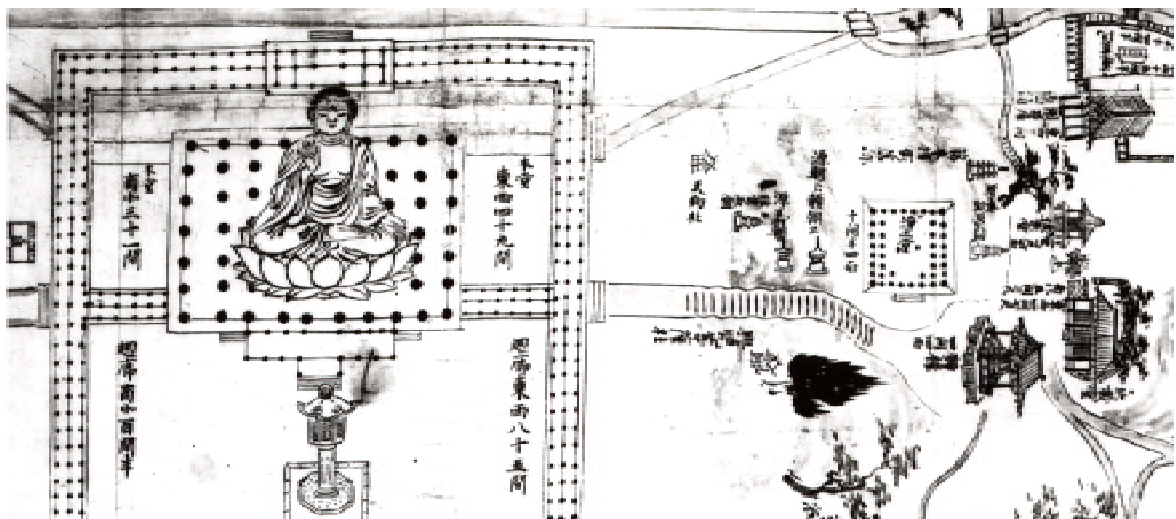
な御堂が、重能によって建立されつつあった。当時都の仏教文化が各地に伝播し、その代表的な文化の1つに著名な東北平泉文化がある。阿波にもそれに勝るとも劣らない仏教文化が花咲こうとしていた。しかし予期しない義経軍の阿波上陸、そして本拠地を失った願主重能の没落によってすべて夢と消える。その仏たちだけは海を渡り俊乗房重源の計らいで東大寺浄土堂におさめられた。その意図は、南都焼き討ちの平氏軍先方をつとめた重能の罪を救済するためといわれている。南都焼き討ちの大将平重衡は奈良の北方の木津で処刑され、その首は奈良の般若寺の鳥居にかけられた。

一方重能は、東大寺境内の浄土堂に縁故の仏が安置され、さらにその横に供養塔まで建立された。この違いはどのように生まれたのであろうか。それを語る資料はまだ見つからない。少なくとも重能と俊乗房重源との間に並々ならぬ人間関係があったのであろう。

最後に、しばしばこのような新鮮な感動を与えてくれる博物館に心から感謝したい。



絵図部分。中央に、「阿波民部重義」と記された石塔がある。



『東大寺寺中寺外惣絵図』

## 友の会行事報告



## 第10回園瀬川探検参加記

ばんどう なおみち  
坂東 直道（友の会会員）

第10回の探検は、6月8日（日）園瀬川源流への沢登りでした。

コースは府能より歩き始め、旧府能発電所跡を経て、いきものふれあいの里までの高低差僅か400m程のコースですが、約3時間半かけての登山はスリルに満ちたものでした。

最初は谷川沿いに道路があり、湿気を帯びた落ち葉を踏みしめ、沢のせせらぎを耳に緑のトンネルをくぐる爽快感は心の安らぎそのものでした。道の所々に真っ白な花弁が大量に散らばっており、見上げるとエゴノキの花が満開でした。道中、路のとうやツクバネウツギ・モチツツジ等も見られ、折に触れ茨木靖学芸員が草木の名、特徴、四季折々の様子を説明してくださり大変勉強になりました。また、クサイチゴなどを食して、しばし童心にかえり、和気藹々はしゃいだものでした。

川沿いの道は間もなく途切れ、谷川が登山道になりました。飛び石を伝い、大岩を這い上り、岩と岩の間隙をすり抜けての難行苦行が続きます。正面が滝で沢登りが無理な地点では、学芸員の方が側面の急斜面を登り、上部の樹木よりロープを垂らしてくださり、ロープ伝いに滝の上部に出ることができました。

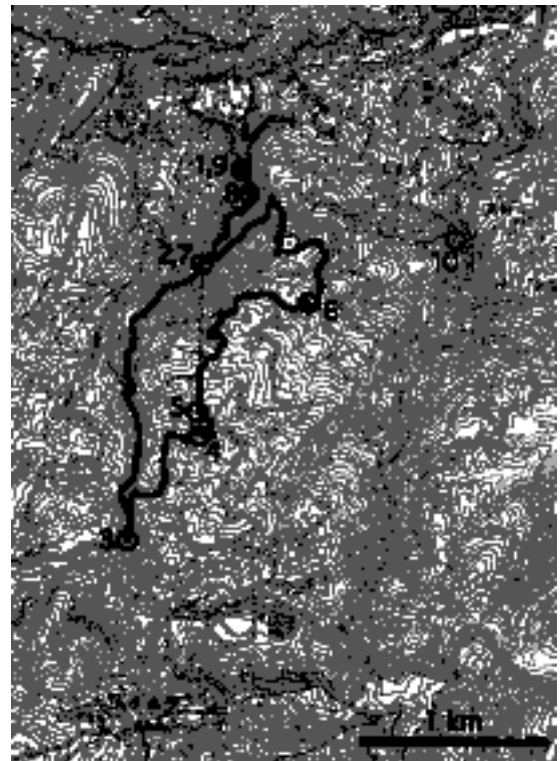
苦しい沢登りでしたが、休憩時間ひんやりした清流に触れたとき、火照った体に一瞬の安らぎを覚えました。また、水に濡れた緑泥片岩の美しさは格別で、水中の岩石にしばし見とれました。あばた状の青石を見つけ、礫岩のようであるが何かとお尋ねすると礫質片岩ですと教えてくれました。此处では、岩石の組織・変成岩の成り方等についてお教えいただきました。この道はお金をくられても2度と登りたくない等と笑いながら話していましたが、1カ月もすると再度挑戦してみたく

なる面白いコースだと思いました。

昼食はキャンプ場のカゾロ溜（調整池）岸辺でとり、小休後、府能発電所資料館を見学し、生活の向上に努力した先人の苦勞を偲びました。

下山は地図とコンパスを頼りに林や竹藪を抜け、天岩戸別神社を経て府能に着きました。車は迂回路をとり、「天岩戸別神社」・「奉三社一の鳥居」の石柱のある旧登山道を案内していただきました。『阿波誌』（文化年間に編纂された郷土誌）にも天岩戸別祠として記述されている由緒ある神社との説明を聞き納得しました。

終わりにりましたが、お世話下さいました役員や学芸員の方々のご苦勞とご指導に心より感謝致しまして、ご報告とさせていただきます。



園瀬川探検 第10回 ルートマップ  
（国土地理院1/25000地形図「阿波三溪」を使用）  
2003年7月8日実施、行程7.2 km

- 1, 9 起点・終点の国道438号線の橋
- 2, 7 府能発電所跡
- 3 水源地
- 4 カゾロ溜池
- 5 府能発電所資料館
- 6 天岩戸別神社
- 8 岩棚を利用した木造の倉庫
- 10 天岩戸別神社一の鳥居

## 友の会行事報告

自然体験  
お米をつくってみよう

## 第1回 田植え体験報告

澤<sup>さわ</sup> 祥二朗<sup>しょうじろう</sup> (友の会役員)

6月28日(土)の午前9時30分から、午後2時20分まで実施しました。朝は文化の森総合公園の噴水前に集合してもらい、レジメを配布し、予定と自然農の田植えについて説明しました。

参加者は、安部淑子さん・希さん(小3)親子、篠原明美さん・ひろみさん(小6)・拓也くん(小4)親子、博物館からの参加者は古東、小川、長谷川、大橋の各氏、澤の計10名でした。各自自己紹介の後、古東氏と澤の車で八万の田んぼへ移動し、午前9時50分に到着しました。

現地で岩野、山地、佐藤、関貫、山田の各氏、岩野夫人らと合流し、岩野氏より1998年から使用し始めた八万の田んぼについて説明があり、全員で自己紹介をしました。岩野氏による草刈りと田植えのデモの後、田んぼの場所とメンバーを決めました(右図参照)。

午後12時に草刈りを終わり、大休止をしました。その時、田んぼの名前を考えましたが、安部希さんが「なかよしたんぼ」を提案しました。

小川学芸員より人と田んぼの共生の場を「なかよし」で表現しているとの推薦の弁、澤より「八万なかよしたんぼ」の案がでて愛称を決定しました。また岩野氏より正式名称として「八万自然農なかよしたんぼ」の案がでて決定となりました。小川学芸員より八万の田の草の話があり、絶滅危

松田誠一	篠原朋実、 拓也 ひろみ 小川、大橋
水口	安部淑子 希 古東 長谷川

作業した田んぼの場所

惧種も数種類あるとのことでした。

昼食の後、12時40分から田植えを始めました。品種は「あけぼの」と「黒米、もち、千葉」の2種類で、山地氏と澤が定規の使い方と植え方を指導しました。午後2時に田植えを完了し、文化の森に戻って解散しました。

なお、他に田んぼの名前として、篠原ひろみさんや拓也くんやから、やよい式たんぼ、ザリガニたんぼ、トンボたんぼ、ヤンマたんぼ、歴史たんぼ、エビエビたんぼ、ゲンゴロウたんぼ、ボウボウたんぼが出されました。

## 「お米を作ってみよう」に参加して

篠原<sup>しのはら</sup> 明美<sup>あけみ</sup> (友の会会員)

昨年、古代米の種もみを会員の先生からいただき、庭に作った小さな田んぼに植えました。ドロドロになりながら子どもといっしょに植え付けたものの、収穫は4合ほどでした。今回は昨年の教訓もかねて、いろいろ学ぼうと参加しました。

当日は雨で長靴は履いているものの、草だらけの田んぼに入るやいなや泥だらけになりました。根元から鎌で草を刈り、汗と泥と雨で手も顔もわからなくなる頃、ようやく田んぼの全体が見えてきました。

お昼のおにぎりをおいしく食べた後、いよいよ植え付け。木枠の当て木に沿って一列に並んで植え付けていくのですが、まっすぐにならずしりもちをつきながらの作業でした。いっしょに参加した子どもも、中腰になってかけ声をかけながら頑張っていました。小学校4年生の下の子は、もっぱらトンボ取りとガマの穂<sup>ほ</sup>採集にあけくれ、ザリガニを「イセエビ」といって喜んでいました。

収穫までには、草取りもあります。できるだけ参加したいと思います。なお、おかげさまで今年の庭の稲は順調に育っております。

## 初めての田植え

まつだ えり (福島小学校5年)

私は少し田植えに興味がありました。それは、広い場所に苗を植えるからです。

初めに雑草を刈りました。雑草を刈ったところに苗を植えるから雑草がじゃまでした。苗をきれいにそろえて植えることができませんでした。

赤トンボやシオカラトンボが田んぼの水面を飛んでいて、シオカラトンボが私の帽子にとまったのでびっくり。でもかわいかったです。

田植えが終わった後、すごく疲れました。でもちょっと楽しかったです。

まつだ せいいち (友の会会員)

農村地帯で生まれ育った私ですが、最近ではイモリやタニシ、アメンボ等を見かけなくなりました。この度はそうした動物たちのいる、農薬に侵されていない自然環境の中で、昔の農耕を偲びながら田植えをする喜びを感じました。しかしその反面、あまりにも雑草が多く、はたして収穫ができるのかと心配な気持ちもしました。

最近草取りをしたさい、株の分蘖が進んで間もなく穂がでるようになるかと思われ、収穫の希望がわいてきました。しかし手入れのやり方次第で

育ちに違いもあるように見えますので、最後の結果が心配やら楽しみやら……。

## 八万自然農園なかよし田んぼ

あべ のぞみ (渋野小学校3年)

田植えをしに行きました。田んぼを見てこんな所で田植えができるんだろうか？と私は思いました。それは背の高い草がたくさん生えていたからです。みんなで草刈りをしました。草刈りをしていると、カエルやザリガニ、それにクモやトンボもいました。植物の先生が「農薬を使っていないから虫や植物がたくさんいるんだよ。」と教えてくれました。

田植えをしていると、雨がポツポツと降ってきました。苗の中には濃い紫の見たことのない珍しいものがありました。

みんなで田んぼの名前を決めました。その結果私が考えた「なかよし田んぼ」に決まりました。みんなが気に入ってくれた理由は、自然となかよしになるという意味がぴったりだったからです。

家に帰ったらすごく疲れたけれど、でもとても楽しかったです。



田植え前の草刈り

## 秋の研修会報告

### 「しまなみ海道美術館探訪」に参加して

まつもと よしあき  
松本 嘉昭（友の会会員）

友の会の貸し切りバスに乗り、定刻に徳島駅前を出発し、一路徳島自動車道を西に向かった。車中ではベテランバスガイドから通過する地方の説明を聞き、トイレ休憩を交えながら、四国と本州を結ぶ第3の橋「しまなみ海道」を通過して大三島へ予定より早く到着。バスを降り、先ず大三島町立美術館を見学した。

この美術館は、日本画の若手作家を育成するために若い人の作品が多く展示されていた。平山郁夫画伯の弟子である田淵俊夫の作品が多く、彼の展示室が作られていた。別室には、日本画の大家である加山又造が描いた6曲1双の屏風「火の島」が、正面の壁に展示されていた。これが日本画かと思う程の壮大さで圧倒された。その他個性ある画家たちの作品にしばし心洗われる時間を過ごし

た。館を出ると昼食の時間で、近くの食堂で地元グルメ鯛めしを味わって休息した。

昼からのコースは、すぐ横にある大山祇神社であった。広々とした境内で先ず目にはいるのが、中央に大きく聳える樹齢2,600年を越すという大楠で、この神域に千古変わらぬ威容を保っていた。その前で参加者全員の記念写真を撮った。大山祇神社は天照大神の兄神で我が国建国の大神が祀られており、日本民族の総氏神として古来崇められている。

長い歳月の間、どのような人々が参詣したであろうかと考えながら参拝した後、近くに建てられている宝物館へ向かった。宝物館は紫陽殿・国宝館・海事記念館の3館があり、日本全国の国宝、重要文化財の武具類の8割が保存されているらしい。時代を超えて輝く大太刀、薙刀、源頼朝や義経奉納の大鎧など順を追ってみてゆくと、いづれも単なる武具としてではなく、作った先人の美的感覚がすばらしく、1つ1つが立派な芸術作品であり、日本人の文化の奥深さを感じさせる品々であった。配布された資料、パンフレットは家に



大山祇神社境内・大楠の前で記念撮影

帰ってゆっくりと読み返そうと思いながら帰りのバスに乗る。

この計画を作られた事務局の方々のきめ細かい配慮に改めて感謝するとともに 研修に参加できたこと本当に良かったと思う。

### 研修会参加体験後記

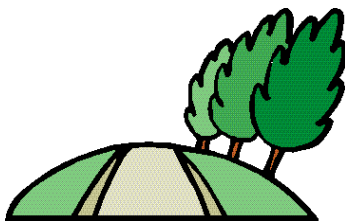
原田 史郎 (友の会会員)

仕事から帰宅すると「研修会が当たったよ。」と家内の第一声だった。申し込みが多いと思い、期待していなかっただけに驚いた 観光ブームが落ち着いた頃なので 近々行こうと思っていた矢先の募集だった。

今年の残暑は厳しかった 研修会の当日も例外ではなく 出発の朝7時過ぎにはその兆しが見え始めた。徳島駅からの参加者と合流後、係の挨拶が終わると、観光バスのガイドさんがマイクをもった 元気ではつらつとしたその話し方に修学旅行を思い出し懐かしく感じた。

しまなみ海道までの途中は1時間ごとにサービスエリアで休憩した。タイミングとしては丁度良かった。2回ほど休憩して予定よりも早く大三島町立美術館近くの駐車場に到着した。

昼前だったが、バスから降りると車外の熱気に包まれた。少し歩いて、美術館の涼しい館内に入り、日本画の棚田の風景画を観て気力を取り戻した。昼食をすませ、余った時間に土産物を見に行ったが、外が暑いせいか店内は大勢のお客でごった返していた。午後は、すぐ近くの大山祇神



大三島。とにかく暑い...

社へ向かった。大きな鳥居をくぐると、境内は広く掃除が行き届いており、流石に国幣大社だ。ボランティアの方の説明を受ける。小千命が瀬戸内の治安を司っていた時に、祖先の神として大山積大神を鎮祭したとのことだった。その小千命が植えたとの伝承がある大楠の前で記念撮影をし、境内の隣にある宝物館に向かった。館内には鎧、兜、刀剣が所狭しと展示され、海事博物館には海事関係資料だけではなく植物や鉱石も展示されていた。

帰りの車中でのほとんどの時間は皆さんが寝ていましたと、ガイドさんが説明したので全員が笑った。暑さと戦いながらも意義のある研修会だった。

最後に暑い中、案内や海事博物館の前で全員が揃うまで待っていただいた係の方々に感謝いたします。



大山祇神社で、現地のガイドさんから説明を聞く。

## 博物館紹介 22

## Jパワー&amp;よんでんWanダーランド

たけもと やすこ  
竹本 泰子(友の会会員)

ここ、Jパワー&よんでんWanダーランドは電源開発株式会社と四国電力株式会社が共同で整備し、平成12年12月23日にオープン致しました。海と山に囲まれた豊かな自然の中に位置するWanダーランドの「Wa」にはいくつかのメッセージがこめられています。地球のみなさまと橋湾石炭火力発電所をつなぐ「和」、美しい自然環境との融合を表す「環」、技術と知識が伝わっていく「輪」、そして新しい発見に驚き感動する「わ!」という声、このように施設のいたるところに「Wa」をモチーフとしたアイデアがいっぱいございます。

それでは施設についてご紹介致します。屋外には直径150mの芝生広場のグラウンド、その周辺にある遊歩道、四季を彩るお花畑、アスレチックのように楽しめる屋外遊具がございます。季候の良い晴天日にはお弁当を持ってこられた家族連れのお客様でにぎわっております。屋外施設にはガラス張りのクリスタル館と外壁に屋上へ上る螺旋状のスロープがついているスパイラル館という2つの建物がございます。まず、クリスタル館には地元あこめ海岸に漂着したマッコウクジラの骨格の標本を始め、阿南市を中心とした周辺地域の空港写真があり、名所・旧跡・特産物など地元を発見できるコーナーがございます。他にも絶対音感や敏捷性など自分がどれだけできるか数値でわかる自分発見のコーナーがあり、大人から子供まで幅広い年齢層の方にお楽しみいただいております。

す。もう1つの建物、スパイラル館には電気や科学について楽しく遊べるコーナーがあり、光センサーで音を奏でる事ができる光のハーブや自分の手や足を使って発電する人力発電マシンなど様々な展示物がございます。屋上には望遠鏡があり、発電所や橋湾を一望する事ができ遠くは和歌山まで見る事ができます。またその屋内外の施設を利用して各種イベントの開催や発電所見学会も実施しております。是非一度、発電所の構内をご見学されてはいかがでしょうか？

これからもWanダーランドでは地域のみなさまの憩いの場として親しまれ、未永くご利用していただけるよう努力してまいります。皆様のお越しをスタッフ一同心よりお待ちしております。



上空から見たJパワー&よんでんWanダーランド

## Jパワー&amp;よんでんWanダーランド

開園時間 午前10時～午後5時  
入場料 無料  
休園日 毎週火曜日・年末年始他  
所在地 阿南市福井町船端1番地  
TEL 0884-34-3251

No.23

徳島県立博物館友の会会報

アワーミュージアム



October  
2003  
Tokushima  
Prefectural  
Museum

## 第23号

2003年10月10日 発行：徳島県立博物館友の会  
〒770-8070 徳島市八万町向寺山 徳島県立博物館内  
TEL 088-668-3636 FAX 088-668-7197